

(様式3)

外国人児童生徒等教育アドバイザー派遣結果報告書

都道府県名	東京都	市町村名		大学名	
派遣日	令和5年6月20日(火曜日) 13:30~15:30 「日本語指導が必要な児童・生徒への指導・支援」理解促進セミナー 13:30 開会 13:35 講演「小中校のつながりをもった日本語指導と高等学校における指導の実際について」 15:05 質疑応答 15:30 閉会				
実施方法	※いずれかに○をつけてください。 派遣 / <u>遠隔</u>				
派遣場所					
アドバイザー氏名	京都教育大学国文学科教授 浜田 麻里				
相談者(受講者)	・東京都教育委員会 (受講者) 日本語指導コーディネーター(都立高等学校「特別の教育課程」実施校) 都内公立小学校、中学校及び高等学校の管理職及び教員等 区市町村教育委員会等の指導主事等				
相談内容	<p>東京都公立学校には、日本語指導が必要な児童・生徒が4,377人(令和4年5月1日現在)在籍している。地区や学校によって、在籍する児童・生徒の状況や必要となる日本語指導も異なり、日本語指導の内容や方法について、教員がより理解を深め取り組んでいく必要がある。</p> <p>また、高等学校においては、この4月から日本語指導における「特別の教育課程」による指導が始まった。新たな仕組みのため、校内体制づくりや具体的な指導事例等、更に理解する必要がある。</p> <p>今回のセミナーを通じて、都内公立学校の教員等が、校種を超えて、以下の5点について理解を深めるとともに、小中高のつながりをもった日本語指導及び支援について共通の認識をもち、都内公立学校における日本語指導に取り組めるよう、理解の促進を図りたい。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>○校内の指導体制</li><li>○教員・支援員間の連携</li><li>○子どもの言語発達</li><li>○言語能力の捉え方</li><li>○言語能力の測定法</li></ul>				
派遣者からの指導助言内容	「小中高のつながりをもった日本語指導と高等学校における指導の実際について」 1. 子どもの発達と言語習得 <ul style="list-style-type: none"><li>・認知発達と言語習得</li><li>・社会参加と言語習得</li></ul>				

	<ul style="list-style-type: none"><li>・母語の獲得と大人の外国語習得</li><li>・子どもの文化間移動</li><li>・読み書き能力の発達</li></ul> <p>2. 言語能力の捉え方</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・思考を支える言語</li><li>・第1言語(L1)と第2言語(L2)の関係</li><li>・発達途上で文化間移動する子ども達</li><li>・複数の言語・文化に触れて育つ子ども</li></ul> <p>3. 言語能力の評価</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・DLA(外国人児童生徒のためのJSL対話型アセスメント)</li><li>・高校生の日本語の評価</li><li>・DLAの評価参照枠</li><li>・「学習目標例」〈書く〉</li></ul> <p>4. 日本語指導の実際</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・日本語指導の目標の3側面</li><li>・4つの日本語指導のプログラム ※高校生の例に基づく、具体例の紹介</li><li>・教科学習の支援(教科学習が困難な原因、取り出し/入り込みによる支援)</li><li>・キャリア教育・キャリア支援</li><li>・発達段階を踏まえたキャリア支援</li></ul> <p>5. 校内の指導体制と学校内外の連携</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・校内体制整備</li><li>・学校外・地域との連携</li></ul> <p>6. 外国人児童生徒等教育に関するリソース</p>
相談後の方針の変化、今後の取組方針等	<p>セミナー終了後のアンケートの結果、受講者から「児童・生徒の言語の獲得に関する知識や支援方法、校内体制の構築の仕方について、理解を深めることができた。」「学校全体でどう支援すべきかを検討するために、校内体制を改善していく必要性を再確認できた。」「なかなか知る機会のなかった、高校での日本語指導について知ることができてよかった。」「学校教育における、小中高の一元化した日本語指導の在り方について知ることができ、今後の指導の方向性を理解することができた。」などの意見や感想が聞かれ、本講演が、自校及び自地区における「日本語指導が必要な児童・生徒への指導・支援」の充実を推進する上で参考になったことが分かった。</p> <p>講師の浜田先生に、多岐に渡って御講演いただいたことで、各受講者の抱える多様な課題について、具体的な指導や支援の手掛かりを得ることができた。また、高等学校における日本語指導の実際について、日本語指導の目標の3側面に基づく、日本語指導のプログラムの紹介をしていただいたことで、小学校や中学校を卒業した児童・生徒がどのような日本語指導を受けるのか、どのような課題があるのか等について共有することができ、小中校のつながりをもった日本語指導の重要性や、校種を超えた連携の重要性について共通理解を図ることができた。</p> <p>本セミナーを通じ、日本語指導を担当する教員が自らの責任や役割、校種を超えて取り組むことの重要性を確認することができた。今後は、様々な機会を活用し、小中</p>

(様式3)

	高の一元化した日本語指導の在り方について更なる理解・促進を進めていく予定である。
--	--

1枚にまとめる必要はありませんので詳細に記載願います。

なお、本報告書の内容は、文部科学省ホームページで公開いたします。